



量販店でも有機農産物の
需要は高まっている

(株)バイオマーケットの大矢正英さんからは有機農産物流通の現場から現状を報告していただきました。宅配事業で有機農産物を供給してきましたが、大手量販店でも有機農産物の販売が拡大しています。関西の量販店では、有機玄米をお弁当に使用し、農民連のお米も使用しています。

(株)バイオ・マーケット
大矢 正英さん

大阪府吹田市と茨木市の学校給食は以前から、有機じゃがいも、玉ねぎ、人参、こまつな、サツマイモ等を中心に、月数回供給しています。しかし、生徒数が多く年間の需要に応えきれていないのが現状です。さらに、泉佐野市は令和6年度から給食の食材を最優先に有機、次に地産地消、どうしてもなければ慣行を使用する方針を打ち出されています。泉佐野市を成功させることができれば、有機給食の実践モデルとなり、一気に全国に広がっていく事になると思っています。その為には、今以上の供給力が必要となりますが、現状ではとても賄う事ができません。学校給食というアプローチを起点に有機農産物が増える事で、次の世代へより良い環境を残すことができると信じていますし、子供たちへの食育を通じて調和と多様性に富んだより豊かな暮らしを実現できると信じています。単なる物の売り買いではなく、同じ思いを共有して前に進んでもらえると嬉しいのです。



関西の量販店の有機農産物販売は着実に増えている。

学校給食に有機農産物供給が急拡大

アグロエコロジー実践の経験交流 第3回有機生産交流会

アグロエコロジーを実践し経験共有を行う、有機生産交流会が1月12日開催され、40名が参加されました。肥料・資材高騰が日常化し、より安全な物を学校給食へ提供する自治体も全国で増えています。地域で実践され、農家同士で教えあうアグロエコロジーが少しずつ始まっています。

不耕起野菜栽培



MOA文化事業団
大下 穰さん

MOA文化事業団の
大下穰さんは、あだたら食農schoolfarmで実施した、不

耕起(省耕起)野菜栽培について報告しました。最初の作業は、作付け前に畑の雑草の草勢を見てスコップで土を確認し、どこに何を植えるかを検討しました。この土地で何をすれば良く収穫できるかを考えることが重要です。栽培したのは、トマト、サツマイモ、里芋、大豆、アブラナ科(キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、大根)です。土は団粒構造を壊さず、苗を移植するところだけほぐす程度で定植しました。肥料はトマトに菜種油粕を少し与えた以外は無肥料で栽培しました。



猛暑日が続く中、不耕起は保水がされ耕起区と比べ生育が旺盛だった。

里芋の間に大豆を撒き、大豆根粒菌による土づくりを同時に行う。草を刈り倒し、マルチにしておく。



5月25日草を地際で刈り、里芋を植える所だけを掘り、種芋を植えていく

食農教育に有機農業を



日販連
中塚 敏春さん

有機農産物が需要に対して不足しており、ぜひ増やしていきたい。その時に食農教育と有機農業は重要な組み合わせです。東京の高校生が探求創造のプロジェクトとして有機農家を訪問し、循環型農業、有機農業の魅力など、食と農について学びました。そして、訪問した有機農家の農産物を中学校

の給食に提供し、作り手の思いを届けています。自分の体は食べたもので作られる。何を食えばいいのか、何を選択すればいいか分かるようになりたいという動機からこの課題に取り組んでいます。こんな素敵な食農教育に貢献できるのが有機農業であり、生産者の出番です。

農民連フラッシュ flash

第30回女性部総会&視察研修

1月19~20日、東京で総会と食品分析センターの見学を行いました。八田所長のお話を聞き「分析センターがいかに食の安全の防波堤になっているか」を学ぶことができました。みんなからの募金で運営されているからこそ明確に結果を出せるという発言に誰もが納得です。翌日は豊洲市場を見学しました。とにかくよく笑い、しゃべり、食べた楽しい視察でした。



青年部さつまいも農家視察へ

1月24日福島県農民連青年部で茨城県のさつまいも農家、中島農園さんと甘藷農園さんの農園を伺いました。参加者の皆さんが気になっていたさつまいもを貯蔵している所や、加工の現場を実際に見学させて頂きました。普段なかなか聞くことができないう話を聞くことができ、大変勉強になった視察研修でした。



オンラインストア始めました。

あまぎけや有機米などが
ご購入いただけます！



こちらの
QRから

